

令和4年8月22日

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

青森 都・道・府・県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
田舎館村立田舎館小学校	田舎館村教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
田舎館村立田舎館小学校	参観日資料	訪問資料

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

① 全学年において「国際科」の時間を設定

ア 第1、2学年は「生活科」の一部の時間を充てる。

イ 第3、4学年は「外国語活動」のすべての時間と「総合的な学習の時間」の一部を充てる。

ウ 第5、6学年は「外国語」のすべての時間と「総合的な学習の時間」の一部を充てる。

② 6年間で学習する内容を見越した系統的な学習過程の作成と実施

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

田舎館村は青森県津軽地方の中央に位置し、田んぼをキャンパスに見立て、7色の稲で表現する「田んぼアート」で広く知られている。このことは、今や国内外から注目を浴びようになり、年々、海外からの観光客が増加している。

このような環境の中、田舎館小学校では、英語を通して積極的にコミュニケーションをとることのできる児童の育成を目指している。また、英語の習得については、保育園から取り組んでおり、保小中と継続した学びとなるよう計画的に実施している。

学習指導要領では、小学校3、4学年で外国語活動、小学校5、6学年で外国語を学習することが示されているが、保小中の円滑な学びの継続と学習の積み重ねを目指し、田舎館小学校では、小学校1学年から国際科を設定し学習を積み重ねることが必要である。

(3) 特例の適用開始日

平成27年4月1日

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

○計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

<p><input checked="" type="radio"/> 実施している</p> <p><input type="radio"/> 実施していない</p>
---

<特記事項>

学校だよりや学年、学級だより等で児童の学習の内容を紹介したり、参観日で授業を見ていただいたりするようにしている。また、学校評価アンケートでも国際科に関してとりあげ、その結果を参観日や教育委員訪問にて報告している。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

田舎館小学校では、教育目標の一つに「学ぶ子」を設定している。国際科という学習を設定することで、単なる英語を知識として学ぶのではなく、異文化について知ったり、人と人とのコミュニケーションの必要性を実感したりすることができている。このことは、日常生活や他教科の学習においても役立つものであり、田舎館小学校が目指す「学ぶ子」を育てるための一助となっている。

課題としては、1学年から6学年までの学習内容を精選することと計画的な実施方法の設定である。「学ぶ子」の育成を目指し、児童にとって学びたいと思う国際科の学習を計画することが大きな課題である。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例を継続的に実施してきたことで、児童の外国語に対する意識は高く、どの学年においても、積極的に英語を話そうという児童の姿が見られている。また、早い時期から英語に触れていることから、英語を聞き分けることや、積極的に話すことのできる児童が多くみられている。

今後の課題としては、高学年の学習内容に取り上げられている書くことを国際科にどのように位置づけていくのかが課題である。

5. 課題の改善のための取組の方向性

4に示すような課題を踏まえて、国際科の学習内容の見直しが必要である。そこで、幼児期での学習内容、そして中学校での学習内容を把握し、系統づけた教育課程の構築を進めることが必要である。また、日常の授業における指導方法についても研修を深める必要がある。